

報道資料

令和5年3月15日

報道機関各位

担当課	雲仙市観光商工部
担当者	観光物産課 竹中
電話	0957-38-3111
FAX	0957-38-3205

国見町内にQRコード観光ガイドシステムを増設

旧島原街道沿いに9箇所を増設、周遊を促進します

下記の通り、QRコードを活用した観光ガイドシステムの設置箇所を増やしましたので、取材等についてよろしくお願いたします。

- 業務名 国見地区観光ガイドシステム導入業務
- 目的 スマートフォン等により旧所・名跡等の情報を入手できるQRコード観光ガイドシステムの設置箇所を増やすことで、地区の魅力を伝え、来訪者の満足度を高め、誘客拡大を図るのが目的です。令和3年度までに神代小路地区と近くの川西地区にも設置しており、神代小路地区等への周遊も促進し、地域の活性化を図ります。
- 概要 QRコードをスマートフォン等で読み込むと、各スポットを文章や写真、音声ガイドで解説し、グーグルマップにスポットを表示します。解説文は日本語と英語に対応しています。
- 設置箇所 国見町多比良から神代まで旧島原街道沿い9箇所に設置しました。江戸時代に島原半島の主要な道路だった「島原街道」の概要をはじめ、藩主が休憩するために駕籠を立てたとされる「お駕籠立て場」、江戸時代に交通の要所が設置された「番所跡」などについて解説しています。
* 令和3年度までに神代小路地区と川西地区に12箇所設置しており、本年度分を含めると計21箇所となります。
- 解説文 別紙の通り(抜粋)
- その他 QRコード観光ガイドシステムのサインの画像等は提供可能です。(QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です)

●QRコード観光ガイドシステムのサイン(一例)



●表示される解説文

島原街道、お駕籠立て場

▶ 0:33 / 1:06

島原街道

島原街道は、江戸時代に島原半島を一周する主要な道路でした。島原城下から島原半島北側の有明海沿いを半時計回りに半周して愛野へ至る道（北目道）は、島原藩主の参勤交代においては、諫早で長崎街道と合流して江戸へ向かう道となっており、今でも「殿様道」と呼ばれています。

ここから東側の島原市境から雲仙岳に向かって伸びる沿線には、奈良時代の肥前国高来郡（たかくのこおり）の代表的な寺院跡と考えられる五万長者遺跡があり、6世紀中頃の築造とされ「鬼の岩屋」と呼ばれる高下（こうげ）古墳など3つの古墳が残っています。

お駕籠（かご）立て場

お駕籠立て場は、殿様が休憩のために駕籠を立たせた場所とされており、この場所で、しばし長旅の疲れをとっていたものと思われます。